

TEGOネットだより浜田



ど根性ひまわり

「てご」とは、方言で「手伝う（支援する）」という意味です。

平成20年7月9日 第14号
浜田市農林業支援センター

はじめに

平成20年6月1日～8月31日は「農業危害防止運動期間」です。
農薬の使用にあたっては、使用基準の遵守や住宅地等における飛散防止対策を十分に配慮し、作業を行ってください。また、散布者は完全防備に徹し、散布後の農薬が河川や湖沼へ流出しないよう環境への危害防止にも留意しましょう。
(浜田市農林業支援センター長 齋藤)

1. 各支援チームの活動について

★ 新規就農支援チーム (担当: 河内・佐々本)

「新・農業人フェア」(東京都)において出前就農相談会を実施しました。
農業を志す方、興味のある方、定年帰農を目指す方…様々な志向の方966名が来場されましたが、特に目立ったのがリクルートスーツを着た大学生の姿でした。面談してみると、とても誠実な方が多く、原油価格の上昇やバイオエタノールなどによる穀物市場の高騰など、農業を取り巻く環境が厳しいことを承知の上で、農業に将来性を感じている方がたくさんいることに感動しました。
課題としては、Iターンとなると農地以外に住宅の確保なども必要となるので、受入れ態勢の整った研修を受けながら、目指す農業の具体化を図りつつ、農地や住宅の確保を図っていく仕組みづくりが必要と感じました。



● 認定農業者支援チーム (担当: 前原・松井)



6月20日(金)、県西部の鉢花・花壇苗の農業者有志で結成され、浜田市内の認定農業者4名が所属している「はなはなじゆく花々塾」(石橋進会長)の経営改善研修会が、金城町新開団地内の石橋農園にて開催されました。

今回は、浜田市で有機野菜の経営を実践されている佐々木一郎さんの講演に続き、春期反省会と秋期栽培計画について意見交換されました。
佐々木さんの講演内容は、一日も欠かさず露店朝市を続けたり、品目ごとの労働時間や収益を計算・分析してより有利な経営類型を確立されたという就農当初を振り返るもの。営農類型は違いますが、「花々塾」の皆さんも大きな刺激を受けられた様子でした。



■ 集落営農組織支援チーム (担当: 塚本・森井)

営農組合『てごの里おぐに』誕生！！

去る6月29日(日)、営農組合『てごの里おぐに』の設立総会が金城町の小国公民館にて開催されました。6集落87戸から成る小国地域は、平成16年度からコツコツと組織化準備を進めておられましたが、このたび非農家を含めた78戸の加入で営農組合が発足しました。

当日は、浜田市長をはじめ、JAいわみ中央の山縣組合長など多くの来賓の方々から、営農組合に寄せる地域活性への大きな期待を込めた祝辞をいただきました。

活動方針は、営農分野のみでなく生活福祉にまで目配りしたきめ細かいもので、提案された全議案も異議なく承認。新しい役員7名も選任され、輝かしいスタートを切られました。

総会終了後は、地元有志2名による『書道吟』が組織発足を祝して発表され、満場喝采の内に幕を閉じました。



▲新役員の皆さん、がんばってください！

2. 西条柿生産組合総会（浜田・三隅）について

6月3日(火)、西条柿の産地である浜田と三隅の両自治区で、**生産組合の定期総会**が開催されました。両組合とも、出荷実績優秀者の表彰に始まり、全議案が審議の上承認されました。新下関青果、浜田青果市場の情勢報告では、「果物の消費が縮小する厳しい状況だからこそ、出荷初期に良いものを出して注目されることが大切！」との意見をいただき、浜田自治区の出荷実績優秀者からは、「**消費者の声を参考に栽培方法を研究した結果、自分の柿を好んで買ってくれる顧客が増えた**」という体験談を聞くことができました。

また、西部農林振興センターの普及員による「もうかる西条柿を目指して」と題した講習会では、大玉・秀品生産のための栽培管理のポイントが説明され、皆さん熱心に聴講されていました。



3. 島根県農業担い手支援センターネットワーク情報交換会について



6月23日(月)、大田市役所に、島根県内にある6つの支援センターの職員が集まり、**初めての試みとなる情報交換会**が開催されました。

当センターからは5名が参加し、販路開拓や集落営農の組織化に力を入れている点をPRしました。また、西条柿・いちじく・ピオーネ・梨の栽培指導から加工品開発までに一貫して取り組む「**ものづくりプロジェクトチーム**」が、浜田市独自の手法として紹介されました。

一方、出雲市の「アグリビジネススクール」（経営感覚を持った農業者を育成する講座）や、益田市の「農業サポーター制度」（市民サポーターを養成し、農家での就労を斡旋する制度）といった他市町の活動報告を聞くこともできました。

4. 有機農業実践セミナー 先進地視察研修について



6月26日(木)～27日(金)、**有機農業実践セミナー先進地視察研修**として兵庫県丹波市に出掛け、「**兵庫県有機農業研究会**」が主催する新たな環境農業の推進をテーマとした勉強会に参加しました。

当日は、浜田市から生産者を中心とした29名、関西地方の有機農業研究会員約30名の参加があり、有機農業技術ネットワークの構築に向けて、モデル圃場の状況報告と指導が行われました。また、先進的な有機農業を実践されている方との意見交換会

もあり、ネットワークづくりの一助になったことと感じます。

7月19日(土)には3回目となる有機農業実践セミナーを開催します。講義内容は「**作目、土質ごとに見合った肥料・資材施用方法と確認方法**」です。引き続きの参加をお待ちしています。



5. 今後の行事予定 ○7月19日(土) 午前9時～ 有機農業実践セミナー（第3回） 会場：弥栄会館

■■ 編集後記 ■■

前月号でもお知らせしましたが、支援センターでは今年度、「担い手アクションサポート事業」という国の補助事業を活用した様々な担い手支援を行います。今回紹介した出前就農相談のように、来月以降もこの事業の報告や参加者募集などの記事をどんどん掲載する予定にしています。耳よりな情報がぎっしり詰まっています、なおかつ読みやすい「TEGO ネットだより」を目指していきたいと思っております。

○当情報誌は新規就農者、認定農業者、集落営農組織と関係機関の皆様には配信しています。
○ご意見、掲載要望、または配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

■ 発刊元 浜田市農林業支援センター TEL: 22-3500 FAX: 22-3477
E-mail: n-shien@city.hamada.shimane.jp